



我が県土
支え育む
希望郷

美しい

県土づくりNEWS

2018年

1月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第162号
平成30年1月31日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 洪水減災対策協議会における「減災に係る取組方針」を策定しました
- 5 【復興支援道路】一般国道397号高屋敷工区開通！！
- 6 【復興関連道路】一般県道吉里吉里釜石線室浜の2工区開通！！
- 7 いわて汚水処理ビジョン2017を策定しました！
～快適で豊かに暮らせる生活環境の早期実現に向けて～
- 9 岩手県初 国際定期便の実現へ向けて
- 10 県南建設業イメージアップカレンダーを作成しました！！
- 11 「建設業新分野・新事業発表フォーラム」を開催！
- 12 復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！
～【第3回】第三次救急医療機関へのアクセス向上～

洪水減災対策協議会における「減災に係る取組方針」を策定 ～大規模洪水時における「逃げ遅れゼロ」の達成を目指して～

平成29年12月、県内3圏域において洪水減災対策協議会を開催し、各圏域で平成29年度から5年間で実施すべき減災に係る取組方針を策定しました。

今後、取組方針に基づき、大規模洪水時における「逃げ遅れゼロ」の達成に向けて、国・県・市町村が一体となり減災対策に取り組みます。



3圏域での協議会開催状況

北上川上流洪水減災対策協議会
(H29.12.27)



馬淵川米代川新井田川圏域洪水減災対策協議会
(H29.12.22)



三陸圏域洪水減災対策協議会
(H29.12.26)

洪水減災対策協議会における「減災に係る取組方針」を策定しました

河川課

■ 洪水減災対策協議会について

平成 28 年 8 月の台風第 10 号災害などの雨の局地化、集中化、激甚化を踏まえ、河川に係るハード整備とソフト対策を一体的に進めるため、平成 29 年に、国・県・市町村により、下記の 3 圏域における洪水減災対策協議会を設立しました。

【洪水減災対策協議会の設立状況】

主な対象河川	構成員
北上川上流洪水減災対策協議会 (H28.8.29 設立・H29.6.27 協議会を拡大)	
【一級水系】 北上川水系北上川、岩崎川、猿ヶ石川等 【二級水系】 大川水系大川等、津谷川水系津谷川 3 水系 184 河川	県：総務部長、県土整備部長、盛岡広域振興局土木部長等 市町村：盛岡市長等（15 市町長） 国：岩手河川国道事務所長、北上川ダム統合管理事務所長、 盛岡地方気象台長
馬淵川米代川新井田川圏域洪水減災対策協議会 (H29.5.31 設立)	
【一級水系】 馬淵川水系馬淵川等、米代川水系米代川等 【二級水系】 新井田川水系雪谷川等 3 水系 29 河川	県：総務部長、県土整備部長、二戸土木センター所長等 市町村：二戸市長等（6 市町村長） 国：盛岡地方気象台長 （アドバイザー）東北地方整備局
三陸圏域洪水減災対策協議会 (H29.5.24 設立)	
【二級水系】 久慈川水系、小本川水系、閉伊川水系、 甲子川水系、気仙川水系等 42 水系 99 河川	県：総務部長、県土整備部長、沿岸広域振興局土木部長等 市町村：宮古市長等（13 市町村長） 国：盛岡地方気象台長 （アドバイザー）東北地方整備局

■ 「減災に係る取組方針」の策定について

平成 29 年 8 月・11 月には、協議会に設置した幹事会により、各圏域における水防災に係る現状や課題について整理を行い、各圏域における取組方針について検討を行ってきました。

平成 29 年 12 月下旬、県内 3 圏域において洪水減災対策協議会を開催し、平成 29 年度から 5 年間で実施すべき減災に係る取組方針を策定しました。

今後、取組方針に基づき、大規模洪水時における「逃げ遅れゼロ」の達成に向けて、各構成員が連携して減災対策に取り組みます。

⇒今後5年間で実施する主な取組について、次ページ以降でご紹介します

【5年間で実施する主な取組】

□ 河道掘削、立ち木伐採の推進

- ・ 中小河川において大規模な浸水被害が発生していることから、平成29年度からの5年間に、計画的かつ重点的に河道掘削や立ち木伐採を進めていきます。



河道掘削の状況

□ 水位周知河川の指定拡大（5年間で20河川を指定）

- ・ 県内の防災拠点や資産集中区域を均一にカバーできるように、洪水予報河川や水位周知河川が未指定の市町村（旧市町村）に水位周知河川の指定を進めます。
- ・ また、平成28年8月に発生した台風第10号で甚大な被害を受けた河川や近年被災を受けた河川について、指定を進めます。



○●川 今後5年間で指定予定の河川
 ○○川 指定済み河川

【水位周知河川指定5ヵ年計画】

H29	小本川（岩泉町）、安家川（岩泉町）
H30	稗貫川（花巻市）、千厩川（一関市）、大川（一関市）、松川（八幡平市）、胆沢川（奥州市）、諸葛川（滝沢市、盛岡市）、雫石川（雫石町）、馬淵川（葛巻町）、北上川（岩手町）、和賀川（西和賀町）、閉伊川（宮古市）、普代川（普代村）、宇部川（野田村、久慈市）
H31	岩崎川（紫波町、矢巾町）、人首川（奥州市）
H32	小本川（岩泉町）、安家川（岩泉町）、小烏瀬川（遠野市）、
H33	刈屋川（宮古市）、長沢川（宮古市）

□ 水位計・危機管理型水位計・水位監視カメラの設置拡大

- ・ 水位周知河川に指定したいが水位計が未設置の河川について、水位計の設置を進めます。
 - ・ 水位計が未設置の河川等については、現在国において開発を進めている危機管理型水位計の設置を進めます。
 - ・ 水位監視カメラの設置を行い、平成30年3月から画像の配信を開始します。
- ※ 危機管理型水位計：国が開発を進めている洪水時のみの水位観測に特化した水位計であり、長期間メンテナンスフリーや初期コストの低減（約100万円/基）を目指している。

【水位計設置5ヵ年計画】

H29	小本川（岩泉町）
H30	刈屋川（宮古市）、長沢川（宮古市）、久慈川（久慈市）、葛根田川（雫石町）
H31	浦浜川（大船渡市）、普代川（田野畑村）、大野川（洋野町）
H32	田代川（宮古市）、川尻川（洋野町）、大川（岩泉町）
H33	

水位監視カメラの画像配信イメージ

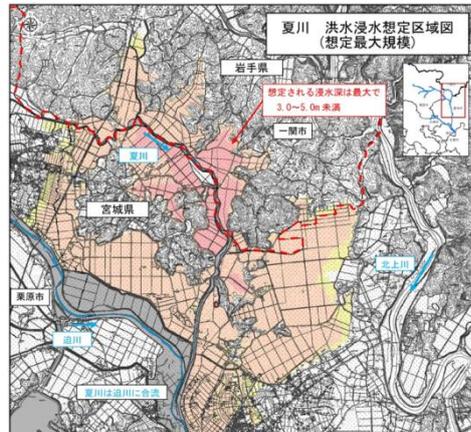


□ 洪水浸水想定区域の指定拡大（5年間で30河川を指定（北上川支川10河川を含む））

- 現在、水位周知河川に指定済みの河川について、想定最大規模の降雨（1/1000以上）による洪水浸水想定区域の指定を進めます。

【洪水浸水想定区域指定5ヵ年計画】

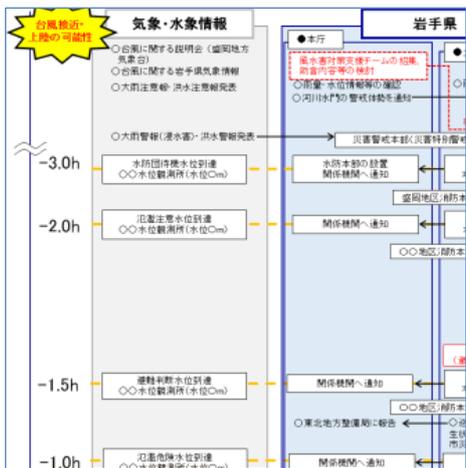
H29	夏川（一関市）、築川（盛岡市）、北上川（盛岡市）、松川（盛岡市）、猿ヶ石川（遠野市）、早瀬川（遠野市）、砂鉄川（一関市）、曾慶川（一関市）、猿沢川（一関市）、衣川（一関市、平泉町）、馬淵川（二戸市、一戸町）、安比川（二戸市、八幡平市）、気仙川（陸前高田市、住田町）、大股川（住田町）、小本川（岩泉町）
H30	雪谷川（軽米町）、瀬月内川（九戸村）、甲子川（釜石市）、鶴住居川（釜石市）
H31	盛川（大船渡市）、閉伊川（宮古市）、矢作川（陸前高田市）、津軽石川（宮古市、山田町）、
H32	安家川（岩泉町）、久慈川（久慈市）、夏井川（久慈市）、長内川（久慈市）
H33	大槌川（大槌町）、小槌川（大槌町）、関口川（山田町）、小本川（岩泉町）



洪水浸水想定区域図（一関市夏川）

□ 水害対応タイムラインの作成

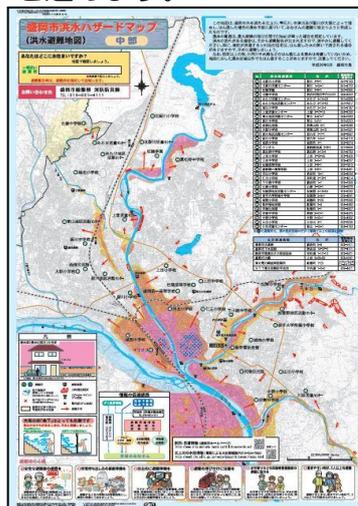
水位周知河川において、台風の接近・上陸を想定したタイムラインについて今年度から順次作成します。



タイムライン作成例（一部拡大）

□ 浸水実績図、洪水ハザードマップの作成

洪水浸水想定区域の指定後には、水防法に基づき、市町村地域防災計画の見直しやハザードマップの作成を進めます。



洪水ハザードマップ（盛岡市中部）

□ 要配慮者利用施設等の避難計画の作成及び訓練の実施・促進

要配慮者利用施設の避難確保計画の作成及び避難訓練の実施の促進に向けて支援を行います。



内閣府が作成した事例集

■ フォローアップについて

今後、本協議会を毎年出水期前に開催し、取組の進捗状況を確認するとともに、必要に応じて取組方針を見直します。

また、実施した取組についても訓練等を通じて習熟、改善を図るなど、継続的にフォローアップします。

【復興支援道路】

一般国道 397 号高屋敷工区開通！！

沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

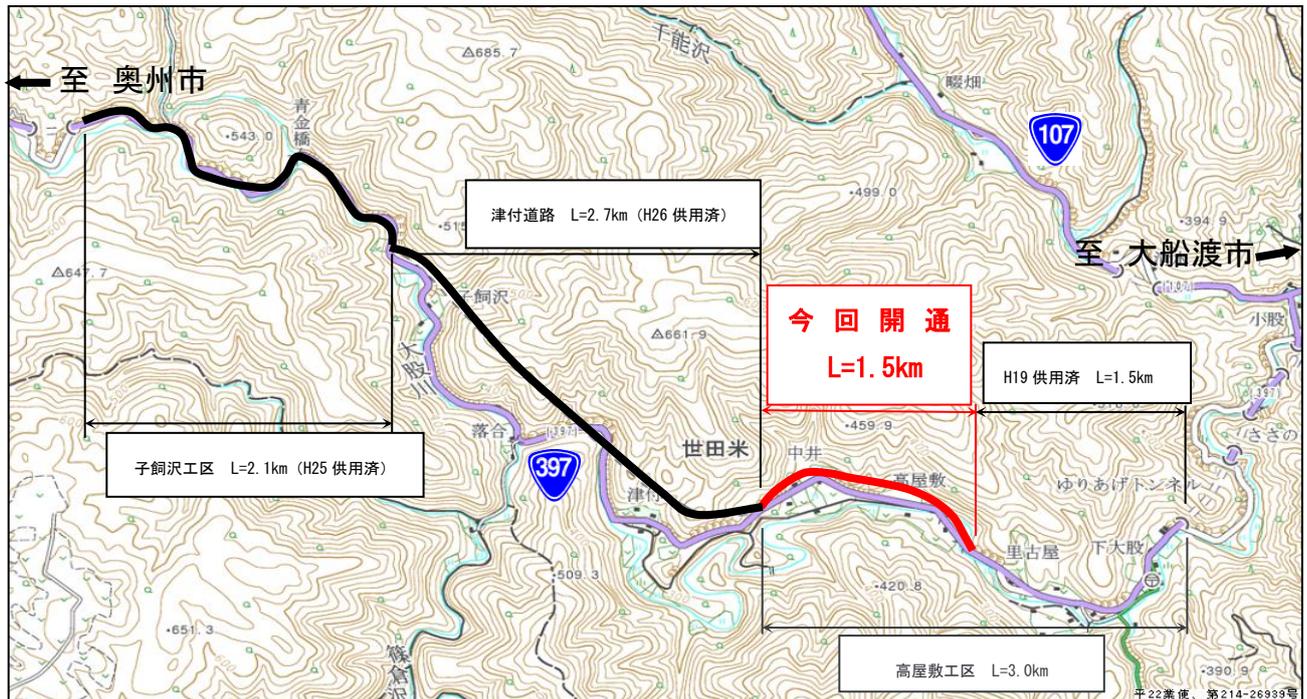
「復興支援道路」として気仙郡住田町世田米高屋敷地区で整備を進めてきた一般国道 397 号高屋敷工区 (L=3.0km) のうち、未開通だった 1.50km が平成 29 年 12 月 27 日に開通しました。

一般国道 397 号は、物流の円滑化及び産業振興の支援を目的に事業着手し順次整備を行ってきました。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災津波の際には、内陸部と沿岸被災地を結ぶ路線として緊急車両等の通行に利用されたほか、今後の復興に向けた物資供給ルートとしても重要な役割を担っています。

また、山間部を縫うようにして通行していた旧道路と比べ急カーブが解消されたことにより事故の減少や安全性向上が図られています。

大船渡土木センター管内の一般国道 397 号の整備は高屋敷工区の開通をもって全て完了することとなります。快適に通行できる一般国道 397 号を利用し、ぜひ、大船渡・陸前高田方面へお越しください。



旧国道 397 号通行状況



開通後通行状況



【復興関連道路】

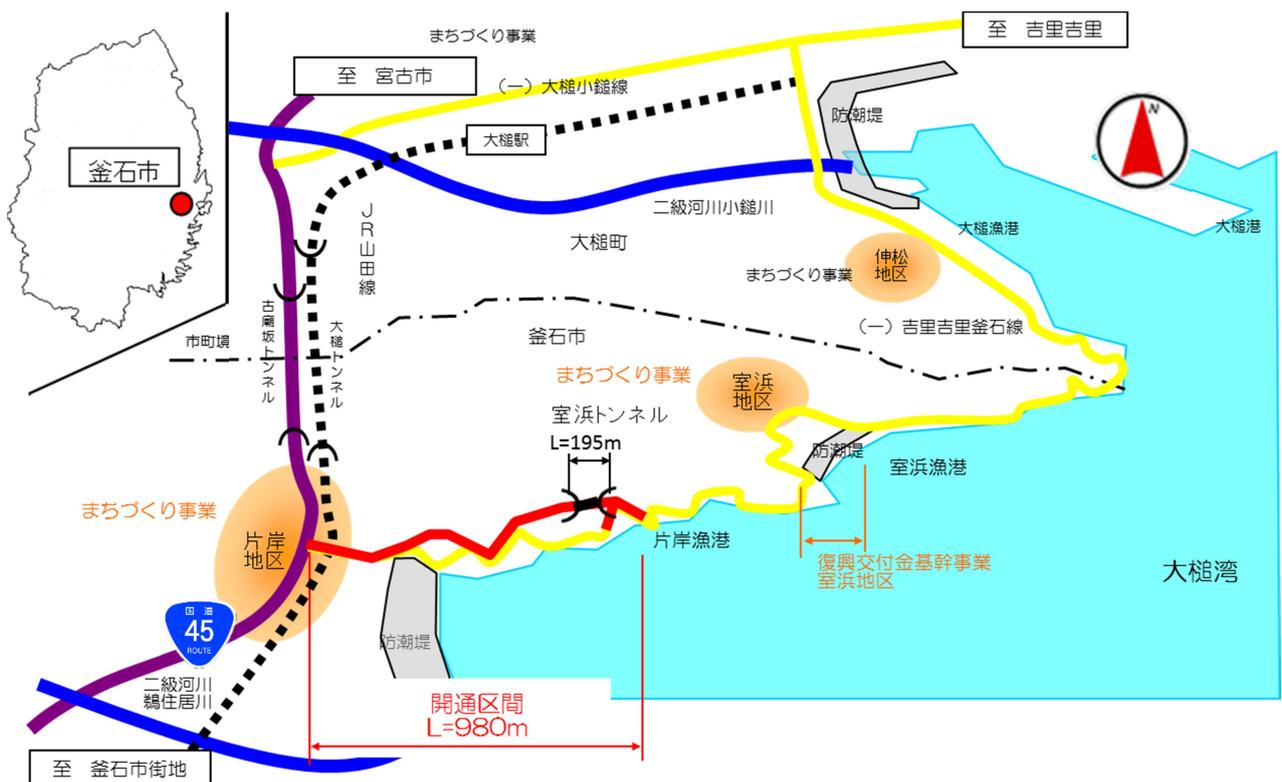
一般県道吉里吉里釜石線室浜の2工区開通！！

沿岸広域振興局土木部

「復興関連道路」として整備を進めてきた一般県道吉里吉里釜石線室浜の2工区(L=980m(内トンネルL=195m))が、平成29年12月25日(月)に開通しました。

一般県道吉里吉里釜石線は、室浜地区(室浜漁港)から国道45号片岸地区へのアクセス道路であり、**水産業の復興を支援する道路**であるとともに、**津波等の災害時は避難路**にもなっています。東日本大震災津波により、室浜地区の集落は壊滅的な被害を受け、避難路となる県道も浸水したため、長時間にわたり孤立化しました。

このため、県では周辺の防潮堤整備や区画整理事業等のまちづくり計画と一体となった**災害に強い道路整備**を行っています。



震災後の様子 (片岸地区)



至 片岸地区

至 吉里吉里



至 片岸地区

開通後の様子

【汚水処理施設整備等に関する県構想】

いわて汚水処理ビジョン2017を策定しました！

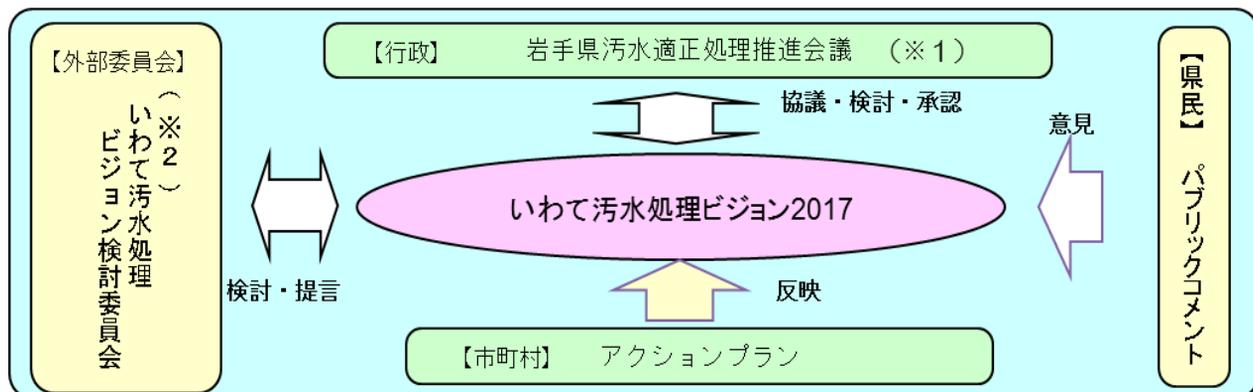
～快適で豊かに暮らせる生活環境の早期実現に向けて～

下水環境課

県では、汚水処理施設の整備等に関する新たな県構想「いわて汚水処理ビジョン2017」を2018年1月に策定しました。これは、従来の県構想「いわて汚水処理ビジョン2010」の次期計画にあたるもので、計画期間は2018年から2025年までの8年間を設定しています。

今後はこの「いわて汚水処理ビジョン2017」により、汚水処理事業を進めていきますが、ここではその内容を簡単に紹介します。

【いわて汚水処理ビジョン2017の策定体制】



※1 岩手県汚水適正処理推進会議

汚水処理施設の整備と維持管理の施策を、総合的・効率的に推進することを目的として、平成15年3月に設置した会議であり、県関係部課と市町村により構成されているもの。

※2 いわて汚水処理ビジョン検討委員会

次期県構想について、汚水処理に関連する多様な意見をいただくことを目的とした外部委員会で、6名で構成。

【委員の構成】

環境衛生・水環境、会計、公営企業経営、環境・地域活動、地方財政、行政（市町村）

【いわて汚水処理ビジョン2017の取組項目とポイント】

「いわて汚水処理ビジョン2017」では、以下の5つの取組項目を設定しています。いずれもこれからの汚水処理事業を考えていくうえで重要な項目ですが、特にポイントとなるのが、「汚水処理施設の早期整備」、「持続可能な汚水処理事業の運営」です。（2項目の概要を次ページでご紹介します）

【取組項目】

1. 汚水処理施設の整備 ← **POINT**
2. 資源・エネルギーの利活用 ← **POINT**
3. 汚水処理施設の運営（経営・維持管理・災害対策）
4. 雨水対策
5. 広報活動・普及啓発



平成30年1月
岩手県

ビジョン2017の詳細は岩手県ホームページをご覧ください

【 汚水処理施設の早期整備に向けた取組】

現状

汚水処理人口普及率が2016年度末時点で全国平均90.4%に対し、岩手県は79.8%で全国34位。

計画・目標

2025年度における汚水処理人口普及率の目標を**91%**とする。（現状から約**11ポイントアップ**）

岩手県の現状と計画の実現性及び全国との比較（全国で中位を目指す）を踏まえ検討して目標値を設定。

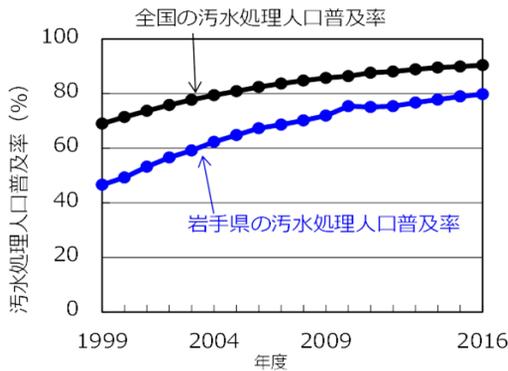


図1 汚水処理人口普及率の推移

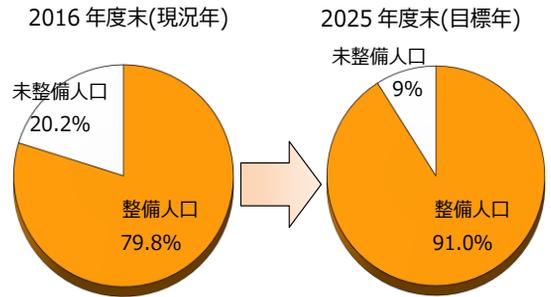


図2 汚水処理人口普及率の目標値

【 持続的な汚水処理の運営を目指すための取組】

現状

維持管理費と資本費からなる支出分を、使用料収入で賄えておらず、厳しい経営状況である。

計画・目標

- ① 経営状況の見える化を進めるため、汚水処理事業への公営企業法を推進。
- ② 施設の維持管理費や更新費用低減のため、施設の統廃合を推進。

- ・ 経営状況等については、見通しを明らかにするだけでなく、積極的に地域住民等に公開。
- ・ 汚水処理施設の健全経営のため、より効率的な施設計画を推進。

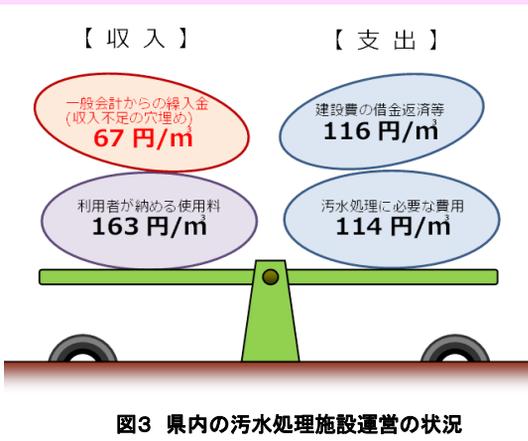


図3 県内の汚水処理施設運営の状況

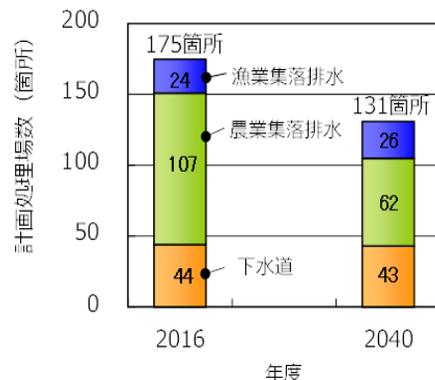


図4 将来の施設統廃合の見込み

社会情勢の変化や厳しい汚水処理施設の経営状況など、汚水処理事業を取り巻く状況は今後さらに厳しくなると予想されます。

「いわて汚水処理ビジョン2017」の取組目標の達成が、より多くの県民の皆様にご快適で豊かな生活環境を提供することにつながるため、県では、今後も市町村及び関係団体の皆様と協力しながら、「いわて汚水処理ビジョン2017」をもとにした汚水処理事業の推進に努めていきます。

岩手県初

国際定期便の実現へ向けて

空港課

台湾定期チャーター便 運航中！

いわて花巻空港と台湾・桃園国際空港とを結ぶ定期チャーター便が、平成30年1月17日(木)から平成30年3月24日(土)までの期間、毎週2往復(水、土曜日)、タイガーエア台湾により運航されています。

このチャーター便は、どなたでも利用することができ、県内旅行代理店にて旅行商品が販売中です。

3/24まで

パスポート取得応援キャンペーン実施中！

先着150名様に旅行代金から5,000円をキャッシュバック！！

詳しくは岩手県空港利用促進協議会ホームページをご覧ください。

また、平成30年3月28日(水)からも同様のチャーター便が運航されることが決定しました。このチャーター便の航空券は、タイガーエア台湾のWEBサイトで購入できます。

ぜひ、この機会に近くて便利ないわて花巻空港発着の台湾定期チャーター便をご利用し、台湾への旅をお楽しみ下さい。

まだ知らない台湾へ、
いわて花巻空港から、
行きたいわん！！



たいわんこきょうだい

定期便の実現の連携に関する覚書締結

平成30年1月15日(月)、台湾台北市において、達増拓也知事と台湾の航空会社「タイガーエア台湾」の張鴻鐘会長が、「国際定期便路線の実現の連携に関する覚書」を締結しました。

県と同社は覚書に基づき、岩手県と台湾との交流促進による両地域の発展のため、定期チャーター便の利用促進や定期便化の早期実現などに連携して取り組んでいきます。



調印式の様子

覚書の内容

- ①両地域を結ぶ航空路線により、両地域のより多くの観光客が旅行を楽しみ、また、ビジネスチャンスが開拓できるよう、チャーター便の利用促進、さらには定期便化の早期実現に連携して取り組むこと。
- ②両地域の文化交流や相互理解を促進するため、広報PR等のプロモーションに相互に協力すること。
- ③持続的に協力し、緊密な連携を図ること。

県南建設業イメージアップカレンダー を作成しました！！

県南広域振興局土木部

県南広域振興局土木部では、建設業のイメージアップとして「3Kイメージの払拭」、「建設業への入職促進」、「若者・女性の活躍」に向けた取組を進めています。

取組の一環として、県南広域振興局管内の建設業協会各支部と協力し、建設業で働く方々をモデルとしたカレンダーを作成しました。

【カレンダー表紙】



＜趣旨＞

現在、県内の高校における土木系学科新卒者における県外就職の割合が高くなってきており、地元建設業において人材の確保が課題となっています。

そこで、地元建設業で働くことの「カッコよさ」、「繊細さ」、「美しさ」をアピールすることで、将来の進路を考える子供達に、職業の選択肢の一つとして認識してもらい、将来の人材確保につなげていくため作成したものです。

＜デザイン＞

県南広域振興局管内で建設業に従事する若手職員の方々を主役として、仕事に対する姿勢、気持ち、目標等のコメントを掲載しました。

＜配布先＞

子供達へのアピールとして、県南広域振興局管内の小中学校（171校）及び県立・私立高等学校（29校）等に配布し校内への掲示をお願いいたしました。

＜今後の展開等＞

今年度からスタートした事業ですので具体的な評価についてはこれから進めることとしていますが、継続的な取組が必要と考えています。

今後は、建設業協会の方々の意見も反映させながら、人材確保に向けた取組を進めていきます。

【県立花巻農業高等学校へ配布の様子】



※左から、三浦副校長、菊池副校長

「建設業新分野・新事業発表フォーラム」を開催!

建設技術振興課

平成30年1月9日、「平成29年度建設業新分野・新事業発表フォーラム」を盛岡市のエスポワールいわてで開催しました。

本フォーラムは、県内建設企業の経営体質の強化への取組意欲を喚起し、構造改革の推進を図ることを目的に、平成15年度から開催してきました。

フォーラムでは、建設業新分野進出等表彰式を行い、優秀賞1社を表彰し、引き続き、今年度受賞企業によるプレゼンテーションと、「建設業の力を活かした地方創生」と題して慶應義塾大学 先導研究センター 特任教授 米田雅子氏による基調講演を行いました。

また、新分野進出企業による事業のPRブースを設置し、今回受賞した事業のパネル展示を行うとともに、過去の受賞事業のパネル紹介や、経営相談コーナーでの建設企業に対する経営相談会を実施しました。

【今年度受賞企業】
優秀賞 1社

分野	環境リサイクル分野
企業名	蒲野建設株式会社
所在地	久慈市
事業内容	安定型最終処分場による産業廃棄物処理事業



建設業新分野進出等表彰式



受賞者プレゼンテーション



基調講演（米田 雅子氏）

復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

【第3回】第三次救急医療機関へのアクセス向上

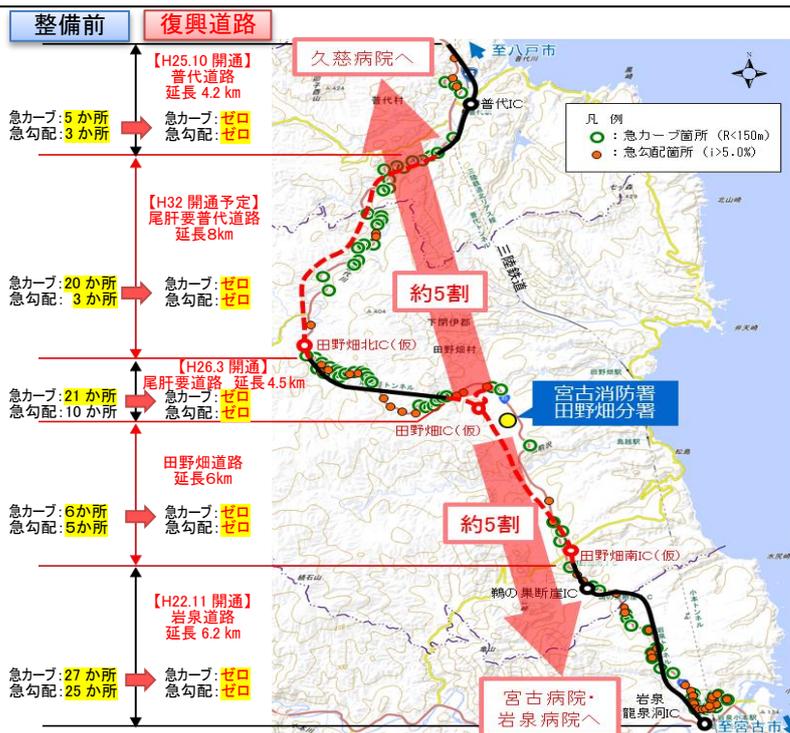
岩手県の第三次救急医療機関

- 県内で、救急医療体制の整っている**第三次救急医療機関**は**岩手医科大学附属病院、県立大船渡病院、県立久慈病院**の3箇所。
- 三陸沿岸地域等の**復興道路の整備**により、時間短縮など**各救急医療機関へのアクセス向上**が見込まれます。

(例えば・・・)

田野畑村では、近隣の久慈病院、宮古病院へのアクセス路に急カーブ・急勾配が多数存在し、患者に大きな負担が生じ、また、搬送中の応急処置にも支障がありました。

復興道路の整備により、**時間短縮、あい路区間の解消**が図られ「**命の道**」として機能します。



※救急搬送先病院の割合は宮古消防署田野畑分署の H27 年実績

復興道路等の整備によるストック効果(救急医療機関へのアクセス向上)

第三次救急医療機関へ
60分以内で行ける人口
が約**17万人**増加

第三次救急医療機関へ60分で行ける人口



現況 (H26年4月時点)

将来(復興道路完成時)

